

株式会社 山田みつばち農園



●農業経営の概要

所在地：岡山県苫田郡鏡野町市場194
 (観光農園) 苫田郡鏡野町塚谷785-1
 参入形態：農地所有適格法人(平成20年設立)
 経営品目：水稲6ha、イチゴ50a、ブルーベリー30a、養蜂
 資本金：1,000万円
 労働力：従業員11名、パート10名、アルバイト14名
 関連会社：株式会社 山田養蜂場(事業内容：ハチミツ製品の開発及び販売)
 (調査年月日：令和3年1月)

～体験型観光農園によるファンづくり～

農業参入の目的

自然界におけるミツバチの役割を広く知ってもらうことで、「山田養蜂場」のファンを増やすため、約15年前に「(株)山田養蜂場」にファーム事業部が発足。イチゴの観光農園事業を開始し、その後、地域貢献の為に、周辺地域の後継者不在の水田で水稲経営も始めた。



農地の確保

- ・観光農園の土地は、当初から個人所有のものを貸借している。
- ・農業生産法人設立後は、町内に農地(水田)を取得した一方で、貸借による水田も増えており、現状で所有地が約1ha、借地が約5haある。なお、貸借は2戸との単年契約である。

農業経営の経緯や現況

農業経営では、「観光事業」「イチゴ・ブルーベリー栽培」「水稲栽培」「養蜂」「販売」の各部を設け、担当者がそれぞれの業務にあたっている。

<生産部門>

- ・中心品目のイチゴは、6品種(かおりの、紅ほっぺ、おいCベリー等)をハウス2棟(計50a)で栽培(高設ベンチでの土耕栽培)している。収穫期は11月下旬から5月中旬。
- ・水稲は大半が「きぬむすめ」、わずかに紫黒米を栽培。蜂蜜の源となるレンゲを裏作で栽培し、景観形成や減化学肥料に役立っている。また、所有するライスセンターで、粳摺り・乾燥・調製・精米作業を周辺から受託している。
- ・栽培技術に関しては、視察等で情報を収集し、岡山県農業大学校卒業の従業員らが先頭に立って栽培を担当している。



イチゴハウス

<販 売>

- ・観光農園では、イチゴとブルーベリーの収穫体験のほか、採蜜体験、養蜂体験など、通年もしくは季節限定メニューを複数設けることで、年間を通じて観光客の確保に努めている。年間のレジ通過者数は約4万人。
- ・イチゴは収穫体験以外に、パック販売や通信販売、農園併設のカフェ（令和2年8月開設）で提供するスイーツへの利用など、販売方法は多岐にわたっている。
- ・米は、親会社である「㈱山田養蜂場」が買い取り、「れんげ米」として販売されるほか、社員食堂などで使用される。
- ・養蜂事業で採れるローヤルゼリーは、親会社が高値で買い上げる産物であり、経営を支える重要品目である。

農業参入の効果や課題等

- ・トラクターなど大型農機の移動では、交通の妨げ、公道への泥落下など苦情の要因が多く、「企業」に対して周囲から厳しく見られることもあった。そのため、細心の注意を払うとともに、ユニック車（4.5t）の導入により、機械輸送を容易にしている。
- ・農業参入により、「養蜂」や「ミツバチ」に対する消費者の理解が深まり、グループ会社全体のPR効果につながった。
- ・水稻経営では、地域農業の担い手として認知され、担い手が減少する現状にあって、地主から水田の管理依頼に係る相談が近年増えている。

今後の展開

- ・コロナ禍により、イチゴ食べ放題を中止し、摘み採りに切り替えたところであるが、来客が激減する中、生産物の新たな販売スタイルをつくる必要がある。
- ・経営的にまだ厳しい状況にあるが、生産技術の維持・向上とともに、イチゴの利益率向上、作業受託を含めた水稻の面積拡大等を進め、健全な経営につなげる意向である。
- ・年々増えている自社への水田管理の要望に対しては、立地条件や作業効率などを十分考慮した上で、取得も含めて検討していく。

農業参入を目指す企業へ

農業経営では、いくら良質な農産物ができても、売り先が収入につながらなくてはなりません。参入を検討する段階で販路を確保しておくことが重要です。

また、当社では、農業経営を安定的に維持し、発展させるため、親会社に設置された「経営支援室」が、経営状況に関する収支等のデータを把握・分析して農園の経営改善を図っていますが、このような仕組みや能力が農業経営には求められます。



農地の様子